

令和6年 第1回北九州市立図書館協議会 会議録

日 時： 令和6年2月7日(水) 14:00～16:00

場 所： 北九州市立子ども図書館2階 大研修室

出席者

○委員(会長他 9 名、欠席委員 5 名)

北九州市立大学前図書館長	中尾 泰士(会長)
北九州市学校図書館協議会会長	本田 壽志
北九州市学校図書館協議会副会長	上満 佳子
福岡県公立高等学校校長協会北九州地区会長	谷川 陽一
公募委員	山中 啓稔
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会監査	吉松 喜美子
北九州市障害福祉団体連絡協議会	林 芳江
九州国際大学図書館長	山口 秋義
公募委員	鈴木 研

○事務局(中央図書館長他 9 名)

中央図書館長	柴田 憲志
中央図書館副館長、子ども図書館長	金子 二康
中央図書館運営企画課長	藤原 定男
中央図書館奉仕課長	綾塚 由美子
中央図書館運営企画課庶務係長	内徳 誠治
中央図書館運営企画課デジタル企画係長	佐藤 孝徳
中央図書館奉仕課奉仕係長	堀尾 節子
中央図書館奉仕課資料係長	善家 三知代
子ども図書館企画係長	荒田 智代
子ども図書館学校図書館支援係長	北谷 真司

○傍聴者 1 名

会議次第

- (1) 図書館視察及び「これからの図書館のあり方」に関するアンケート結果について (報告)
- (2) 「これからの図書館のあり方」(答申)の素案について (説明および協議)
- (3) その他報告等
 - ①指定管理者の指定及び指定の一部変更について (報告)
 - ②ブックリサイクル譲渡本に残っていた旧式ブックカードの回収について (報告)
 - ③雑誌スポンサー制度について (説明)

議事

(1) 図書館視察及び「これからの図書館のあり方」に関するアンケート結果について（報告）

図書館視察及び「これからの図書館のあり方」に関するアンケート結果について、資料及び提示スライドに基づき、事務局から説明

（委員）

複数回答の設問に対して100%の帯グラフが作られているが、アンケート結果を適切に表現できていないと思われる。

（事務局）

修正する。

(2) 「これからの図書館のあり方」(答申)素案について

「これからの図書館のあり方」(答申)の概要および「これからの図書館のあり方」(答申)素案の内容について、資料に基づき、事務局から説明後、協議

○ 「第1章 現状と課題」について

（委員）

和暦だけだと、何年前のことかと分かりにくいので、西暦も入れた方が読む側の理解が進むと思う。

（事務局）

和暦、西暦を併記する。

（委員）

p.5以降は、文章とグラフ・表が混ざっていて理解がしやすいが、p.4は文章表記だけなので理解しにくい。時系列の表で示した方がわかりやすいのではないか。

（事務局）

時系列の表の方がわかりやすいというご意見はその通りと考える。一方で、答申としてはどういう表記が適しているかという視点から検討する。

（委員）

p.5以降のグラフの単位を、「千人」・「千冊」ではなく、「万人」・「万冊」にした方がよい。

（事務局）

変更する。

（委員）

p.6に貸出冊数とか貸出者数のグラフはあるが、人口の減り方と比較するために人口の推移のグラフを入れて分析した方がわかりやすいのではないか。

（委員）

このデータだけでは貸出冊数と貸出者数が多いのが少ないかわからない。県や全国のデータとの比較があればよいと思う。

(会長)

できるだけ多くの市民に利用してもらいたいと第2章で述べているので、この第1章では事実をありのままに示し、それについての価値判断はせずに、現状はこのような状態であるのでさらに図書館利用を市民に促していただきたいという形の答申にするとよいかと思う。グラフの表示等も含めて、検討する。

(会長)

p.4の表記の仕方について、図書館協議会が答申し、図書館側が読者として読むという理解なのか、それとも一般市民に読んでいただくというものか、どう整理したらよいか。

(事務局)

最終的には、公表されるものなので、一般市民が見てわかりやすいという視点は大事であると思う。

(会長)

p.9の「図書館の利用のしかた」についてのアンケート結果で、複数回答の質問に対する分析として、この「1割程度」という数字が適切かどうかもう一度確認して、アンケート結果を正確に表現できるよう検討していただきたい。

(事務局)

検討し、適切な表記に改める。

○「第2章 これからの図書館のあり方」について

(委員)

方向性1「誰もが利用しやすい図書館」と方向性3(1)「市民に開かれた図書館」の違いが、いまひとつわかりにくい。書かれている中身というよりは項目の表現や分類にひと工夫必要だと思う。

例えば、方向性1は誰もが利用しやすいという意味で「OPEN」、方向性2は来館者や市民のニーズに合わせるという意味で「FIT」、方向性3は協働する前の段階で横の繋がりを広げるという意味で「LINKAGE」の方がマッチしているのではないかと思う。

(会長)

確かにわかりづらい感じはある。おそらく、方向性1はユーザーとして市民が利用しやすいことを図書館に求めるもので、方向性3は逆に市民に図書館の中にどんどん入ってもらい、サービス提供者側にも回っていただきたいということが、この「開かれた」という意味ではないかと思うが、その理解でよろしいか。

(事務局)

その意味である。方向性1は、ユーザーにとって図書館がより使いやすいものとなることで、方向性3(1)は、「参画してください、利用者の意見を聞いて、一緒にやっています。」という意味と捉えている。

(会長)

そうであるとすると、わかりやすい表現に直したほうがいいのではないか。「市民に開かれた」は「市民とともに歩む図書館」とかそんな方向でまとめることはどうか。

(委員)

現在の取組の延長線にあるものを粛々とやっていくというジャンルと、より強化するジャンルを明確にするのは基本計画の段階に行うのか確認したい。

(会長)

今回の答申で新しいのは居場所としての図書館ということで、それは方向性 2(3)「多様化するニーズへの対応」で記載している。図書館サービスはそれほど大きく変えられるものでもないのですが、本を読まなくても来ててもよい図書館と、電子書籍等を中心としたデジタル化への対応が前回からの大きな変更点だと思う。

(事務局)

前回の答申との違いとして、デジタル化と居場所としての役割を指摘いただいた。加えて、来館を待っているのではなく、図書館側から出かけるアウトリーチも積極的にやっていないといけないと思っている。そのことが、現在北九州市が新ビジョンで頑張ろうとしている「まちづくり」に貢献していくことになり、先ほど話に出た市民参画ということも少し強める必要があると考えている。

(委員)

p.15網掛け部分「学習への支援」の表現について、従来の図書館のイメージを払拭する内容をキーワードとして入れたほうが広がるのではないかと。

(事務局)

「学習支援」に網かけしたのは、「学習への支援」とはそもそも何をイメージしているのか、事務局ではコンセプトの整理が間に合わなかったのも、委員の皆様にもご議論いただきたいとの主旨である。

(委員)

p.15の地域との連携の中で、地域の拠点である市民センターに本が届くような仕組みがあると移動がしづらい高齢者も利用しやすくなるのではないかと。

(事務局)

市民センターにはひまわり文庫があって、数ヶ月に1回図書を入れ替えている。ひまわり文庫の存在があまり知られてないことは課題と考えており、今回、方向性 1(3)「図書館からの情報発信」が明記されることで、情報発信の強化につなげられればと考えている。

(委員)

災害の際などは、高齢の方や移動に困難のある方にとって、情報があることでかなり生活の充実が図れると思う。お金をかけて電子媒体を利用すればたくさんのものが得られるが、移動が大変な人とか被災したときとか、「生活の充実」というニーズも図書館の観点として入れていただきたい。

(会長)

いくつか重要なご指摘をいただいた。「生活の充実」、「クオリティーオブライフ(QOL)」というキーワードを、方向性 2(3)「多様化するニーズへの対応」のところに盛り込めるのではと考える。多様化するニーズと市民の生活の充実に資するという形で、図書館が高齢者も含めて「生活の充実のための役割を果たす」という内容をもう少し付け加えることも

できそうである。

(委員)

「あなたは読書しますか」と聞かれると、私はしないので肩身が狭いが、文字情報は結構読んでいる。その意味で、やがて読書とか図書とかいう言葉の概念自体も変わってくるのかなと思う。p.15に「中学生や 20 代の市民が図書館を利用しない。本を読まない人が多い」と書いてあるが、図書館の本を読まないということで、こう書かれるとひどく肩身が狭くなってしまいますので、ここの書き方の工夫をお願いしたい。

(事務局)

読書をしない人という表現については、お預かりさせていただきたい。また、先ほどの書かれた内容とワードが合っているかという表現の問題や、図書館は本当に役に立っているのか、生活の充実に繋がっているのか、市民に便利に使ってもらえているか、そういった要素をどう盛り込み、見出しにどう反映させるかという点については、整理が必要と考える。

(委員)

方向性1「誰もが利用しやすい」の「誰もが」というのは、一体誰を想定しているのか。今後、日本語が不自由な人たちにとって学習の機会を提供するサポート、デジタル環境が整っていない人へのサポート、不登校の子どもたちや引きこもりの人たちに対する居場所の提供のサポート、起業を目指す人へのサポート、日本語が不自由な人たちへのサポート、人生で困ったときに行政のいろんな機関とつなぐサポートなど、方向性2(2)「市民・地域の学びと課題解決の支援」や(3)「多様化するニーズへの対応」にかかわるのではと思う。

あと、図書館に長時間いる人たちを、本を借りる方向につないでどうか。また、前回のいろいろな業績や評価を見て、1館がしたことがずっと羅列されているように感じた。今私たちがやっていることは、14 館すべてが足並みをそろえてやることを検討しているのではないか。どこかだけができていて別のところはできていないというのは違うと感じたので確認したい。

(事務局)

基本的には全部の図書館でやっている取組を書いていることが多いが、特に障害者対応で郵送貸し出しとか録音図書の貸し出しなどは、中央図書館だけしか行っていないこともある。それを横展開していくことについては今後力を入れていきたい。市としては、基本的な取組等については全館で足並みを揃えて行っていく方針であるが、各館の状況や利用者の動向等を生かした特色ある取組も重要だと考えている。

(会長)

指摘いただいたことは具体的な内容が含まれているかと思う。繰り返しになるが、具体的な内容については図書館の方で考えていくということになっているので、その辺は我々がどのように答申で文字化していくのかというところかと思う。

(委員)

p.16の方向性 3「市民や地域と協働する図書館」の(2)「市民に開かれた図書館」というところで、図書館側が「支援する」、「支える」という言葉が出てきているが、せっかく地域と協働」となっていて、自己実現とか社会参加とか参画とあるので、「支える」ではなくて、「社会参加」とか、「参画する」とか市民目線の言葉が良いのではないかな。

(委員)

p.21の公共施設マネジメント実行計画の記載について、分館は確かに縮減しているが、一方で、ひまわり文庫のようにより小さい校区にフィットしていることを述べられたらよいと思う。

(事務局)

公共施設マネジメント実行計画はすでにある計画で、これまでこれに沿って分館を整理している。この計画に修正等は付け加えられない。

(委員)

小倉北区も小倉南区も図書館のすぐ近くに生涯学習センターがあり、門司区でも複合施設の中に両方入ると聞いている。生涯学習センターや市民センターに近い機能を図書館が持つ必要があるのか。その辺は、図書館だけが全機能を持つのではなく、限られた税金や施設を有効利用、有効連携してはどうかと思う。

(事務局)

いただいたご意見は重要な視点である。今後、答申や現状・課題を踏まえ具体的な施策や事業も盛り込んだ計画を作っていく予定であり、その中で検討していきたい。

(委員)

p.14方向性 1(2)「市民の図書館利用支援、促進」について、リーフレットを作るとか、職員によるサポートとリアルな対応を中心に書かれていて、ここは従来からも重要なことだと思う。ただ、14 館やひまわり文庫について知ってもらうときに、スマホ世代の人々に身近なSNSや広告にデジタルを使って、今届いていないところにどう届けるかというところはこれまでにない取組で、従来以上にティーン世代にアクセスするための 1 つの手段なので、それも入れた方がよいのではないか。

(事務局)

今届いていないところにどう届けるかについては、方向性1(3)「図書館からの情報発信」を踏まえ、計画策定において具体的に検討することになる。

(委員)

あり方の諮問の間隔が 7 年ごとになっているが、そもそも他の行政、市の計画と比べて、この 7 年は妥当なのか。7 年ごとにする妥当性を当局で整理していただきたい。

(事務局)

7 年スパンというのは決まったものではない。今回の答申案では目標年次等が定められていないが、来年度策定予定の基本計画では、目標年次を定め、その間の進捗管理をしていくことになると考えている。

(会長)

皆様からいただいた意見を私なりにまとめたと思う。

あり方の答申は、1 章で現状の分析をした上で、それを受けて 2 章を作るという形になっている。

第 1 章の図書館の利用者の満足度については比較的高い満足度を得ているので、継続

していただき、蔵書の充実については少し満足度が低いので、引き続き努力をお願いします。

p.7では高齢化が進んでいると書いているが、第 2 章ではあまり高齢化や高齢者のニーズについての言及がないように見られる。委員からもそういう要望が出ているので、高齢者のニーズについてどこかに入れる形にしてはどうかと思う。多文化共生については、最初の方に「外国にゆかりのある」ということで書いてあるが、もう少しわかりやすい表現ができるのかもしれない。それから、コロナ禍を契機とした社会の変化についてはデジタル化について取り上げられている。

今回指摘いただいた点については、事務局と福田副会長とで相談の上で、詳細を詰めていただくので一任をお願いします。追加のご意見等あれば、事務局まで連絡をいただきたい。

(3)その他報告等

資料に基づき、事務局から説明

報告① 指定管理者の指定及び指定の一部変更について(報告)

報告② ブックリサイクル譲渡本に残っていた旧式ブックカードの回収について(報告)

報告③ 雑誌スポンサー制度について(説明)